



40号 令和6年7月4日

<学校教育目標>

自ら伸びる ともに伸びる

# 校長だより

呉市立阿賀小学校  
安宗 誠



## 人の道を外れない生き方を積み重ねる

今朝、全校放送で校長から阿賀っ子にしたお話をご紹介します。

「例えば」のお話をします。お休みの日、AさんとBさんが公園でキャッチボールをしていました。その日はかんかん照りのうだるような暑さ。公園のとなりは学校のプール。「プールに入ってすかっとしたいなあ。」とAさん。そして、AさんはBさんに言いました。「塀を乗り越えてプールで泳ごうぜ!」「でも・・・、だれかに見つかったらやばいよ。やめとこうよ。」とBさん。「大丈夫!大丈夫!だれも見えていないから。」とAさん。この後、AさんとBさんは、最悪、どんなことになるのでしょうか?

最悪、2人とも尊い命はなくなります。どのようにして、命が亡くなるのかは、もうここではいちいち言いません。

「例えば」のお話をしていますが、この後、やっぱりこの2人がプールに侵入したとして、そして、こっそり、プールで泳いだとして、それでも、命が亡くならなかったとして、そして、その後、何事もなく、塀を乗り越えて家に帰ったとして、そして、その日はだれにもばれなかったとして・・・。

例えそうであったとしても、この2人がした悪事・人の道を外れた行いは一生消えることはありません。自分はそんなことをしてしまった人間だと思いながら一生生きていかなければなりません。そうなってもよいのでしょうか?

どんな人も過ちや失敗をするでしょう。しかし、自分の命を粗末にすることにつながってしまうようなこと。人を苦しめること。人を悲しませること。1度しかない自分や人様の人生を台無しにすること。取り返しのつかないこと。警察に捕まるようなこと。これらはしてしまったら、もう、どうにもなりません。あんなことをしなければよかったと、後から悔やんでも、時間はもとはにもどりません。やり直しはできません。人生は、スマホのゲームとはちがいます。

そう思いながら、阿賀っ子のみなさんには、1人残らず人の道を外れない正しい生き方をしてほしいです。人が見えても見ていなくてもです。自分のしたことは必ず自分に返ってきます。必ずそうなります。人にやさしくすれば、人からも大切にしてもらえます。そうでない人が人から大切にもらえるわけがありません。

今、私が話したことをしっかり守れている阿賀っ子がほとんどです。でも、ほとんどはいけないのです。全員そうでなければいけません。そういう人生をお互い支え合いながら歩いていきましょう。